

2026年度 長岡大学シラバス

授業科目名	産業史 (History of Industries)					担当教員	王 子龍 (オウ シリュウ)	
2020-23年度 入学者(20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型AL
	2036-0-33-085	専門科目	選択	2単位	3年次	後期		
2024-26年度 入学者(24K-26K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型AL
	2436-0-33-024	専門科目	選択	2単位	3年次	後期		

① 授業のねらい・概要						
本講義では、主要産業の発展過程を世界的な視点から学び、現代産業の形成を理解することを目的とする。鉄道・海運、造船、鉄鋼、自動車、電機・ITなどの代表的産業を取り上げ、技術革新、企業活動、国際競争の展開を具体的事例を通して学ぶ。これにより、産業の変化を歴史的に捉え、現代の産業構造やビジネスの動向を考える基礎的視点を養う。						
② ディプロマ・ポリシーとの関連						
職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力						
③ 授業の進め方・指示事項						
講義形式を中心に進め、スライド資料を用いて解説する。理解を深めるため、数回ワークシートを実施し、要点整理と振り返りを行う。授業資料は主にスライドを配布し、必要に応じて補助資料を配付またはオンラインで共有する。						
④ 関連科目・履修しておくべき科目と履修に望ましい予備知識・技能						
特に必要な予備知識はないが、経済史、日本経済論などを履修していると理解が深まる。日頃からニュース等で産業・企業の話題に触れておくことが望ましい。						
⑤ テキスト(教科書) ※授業で使用する。						
指定教科書は使用しない。 授業ではスライド資料および配布資料を使用する。						
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。						
宮本又郎他(2023)『日本経営史—江戸から令和へ・伝統と革新の系譜』有斐閣。 中岡哲郎他(2001)『新体系日本史 11. 産業技術史』山川出版社。						
⑦ 担当教員からのメッセージ(昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等)						
本講義は、難しい理論よりも具体的な産業・企業の実例を通して「産業がどのように変化してきたか」を分かりやすく理解することを重視する。授業で扱う事例を手がかりに、現代の産業ニュースの見方を広げてほしい。						
⑧ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安						
(1) 主要産業の歴史的展開を、要点を押さえて説明できる。 (2) 技術革新・企業活動・国際競争が産業発展に与えた影響を、具体例で説明できる。 (3) 歴史と現代産業のつながりについて、自分の考えを整理して表現できる。						
⑨ ルーブリック						
評価基準		S	A	B	C	D
評価項目		到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(1)	産業史の理解	産業の変化を体系的に理解し、因果関係も含めて自分の言葉で説明できる。	主要産業の歴史的展開を正確に説明できる。	主要産業の歴史的展開について、主要な出来事を挙げて説明できる。	主要産業の歴史的展開について、用語や出来事を挙げて一部説明できる。	主要産業の歴史的展開を説明できない。
(2)	歴史と現代の関連理解	歴史的実例と現代産業を結び付け、具体例を用いて説得的に説明できる。	歴史と現代の関連を具体的に説明できる。	歴史と現代の関連を、要点を押さえて説明できる。	歴史と現代の関連について、例を挙げて一部説明できる。	歴史と現代の関連を説明できない。
(3)	思考・表現力	論点が明確で、根拠を示しながら論理的に表現できる。	自分の考えを筋道立てて表現できる。	自分の考えを、理由を添えて文章で説明できる。	自分の考えを文章で一部説明できる。	自分の考えを文章で説明できない。

⑩ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法							
学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 取組姿勢・意欲	その他	合計
総合評価割合	60%		20%		20%		100%
(1) 産業史の理解	30%		5%		5%		40%
(2) 歴史と現代の関連理解	20%		10%				30%
(3) 思考・表現力	10%		5%		15%		30%
評価項目「その他」詳細							
フィードバックの方法	定期試験の結果は全体に共有する。課題（ワークシート等）は授業内で適宜講評する。						

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）	
1	産業史とは何か／世界産業史の見取り図	講義の復習（産業史の目的・用語の整理）	120分
2	産業革命と近代産業の誕生	講義の復習（産業革命の要因・影響の整理）	150分
3	蒸気機関・工場制と工業化の拡大	講義の復習（技術革新と生産方式の変化の整理）	120分
4	交通革命（鉄道と海運）	講義の復習（鉄道・海運が市場統合に与えた影響の整理）	120分
5	造船業と重工業化	講義の復習（造船技術・産業関連の整理）	120分
6	鉄鋼業の発展	講義の復習（鉄鋼業の企業戦略・垂直統合の整理）	120分
7	大量生産体制の確立と標準化	講義の復習（大量生産の条件・利点と限界の整理）	120分
8	自動車産業の誕生	講義の復習（フォード方式と労働・市場の変化の整理）	120分
9	企業戦略と多角化	講義の復習（企業組織・競争戦略の要点整理）	150分
10	戦争と産業	講義の復習（戦争が産業構造に与えた影響の整理）	120分
11	戦後産業の再編	講義の復習（戦後復興・国際競争の整理）	120分
12	日本産業のキャッチアップと産業政策	講義の復習（キャッチアップ要因・政策の整理）	120分
13	電機・IT産業の発展と技術パラダイム	講義の復習（電機・IT産業の変化の要点整理）	120分
14	グローバル化と産業再編	講義の復習（国際分業・企業行動の整理）	120分
15	総括：産業の未来を歴史から考える	講義の復習（全体の整理と定期試験準備）	180分

⑫ アクティブラーニングについて
本講義では、知識定着・確認型のアクティブラーニングを取り入れる。具体的には、数回ワークシートを実施し、講義内容の要点整理と振り返りを行うことで知識の定着を図る。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性